

## 牛群検定通信 No44

◇ あなたの牛群の平均搾乳日数は？ ◇

明けましておめでとうございます。本年もいろいろと牛群検定情報を提供しますのでよろしくお願いいたします。さて、「平均搾乳日数」という検定用語をご存じですか？意味は文字通りで、現在搾乳している検定牛の分娩後日数（搾乳日数）を平均したものです。極めてシンプルな数値ではありますが、その活用方法は奥深く、牛群検定の重要な概念のひとつです。

### 1 平均搾乳日数とは？

平均搾乳日数は検定成績として、様式A、Bでは1枚目の成績表の中段左よりに、また、様式Cは最上段の中程に、それぞれ記されています。平均搾乳日数は繁殖成績です。繁殖成績が良好な検定農家では160日程度となりますが繁殖成績が思わしくない検定農家では、200日を超えることも珍しくはありません。

ただし、繁殖成績といっても分娩を起点にした数値ですから、今現在の授精や受胎を反映したものではありません。

### 2 平均搾乳日数と生乳生産

繁殖成績には分娩間隔や受胎率をはじめ、いろいろなものがあります。そのうち、平均搾乳日数という繁殖成績は、生乳生産と素直に結びつけることができるのが特徴です。乳牛の泌乳生理は承知されていると思いますが、乳牛は分娩後から泌乳を開始して、60日頃に泌乳量が最も多くなり、その後に漸減していきます。すなわち、搾乳日数60日頃の泌乳量が最も多いわけですから、牛群で平均した搾乳日数でも、200日より160日の方が生乳生産量が多くなります。このように繁殖成績を、直感的に生乳生産に結びつけて考えることができるのが平均搾乳日数の良いところです。

また、高度な活用法としてはMIDというものがあり、仮に、平均搾乳日数160日を達成した場合に牛群の平均搾乳量がどれくらいか？を見ることもできます。（MIDは検定成績表様式ABの1枚目の下段左の乳量階層に表示されています）

### 3 平均搾乳日数の見方

まずは前述のとおり、平均搾乳日数が160日になるように繁殖成績を改善することが重要です。次に、生乳生産と直結する成績ですから、通年的に安定することも求められます。

例えば、夏期の繁殖が思わしくなく11～12月ごろに何頭もまとめて受胎させたような場合、分娩予定日は9～10月ですから、7～8月ごろに乾乳させることとなります。すると、7～8月頃に乾乳間際の牛が多くなり、この頃の平均搾乳日数が最も長期化し、牛群としての生乳生産性が落ちてしまうこともあります。乳価の高い時期でもあるので経済的な損失も大きいものとなります。こういったことにならないよう、平均搾乳日数は通年的に安定させることも必要です。